

持続可能な社会の形成者育成をめざした実践研究 単元「将来世代を考慮した制度を考える」の開発

大阪府立三国丘高等学校
首席 大塚雅之

簡単に自己紹介



博士論文

「社会科金融教育の授業構成原理に関する研究
—不確実性に着目した四類型モデルの構築と授業実践を通して—」

今回の実践の概要

- 内容：政治・経済 学習指導要領
「財政の働きと仕組み及び租税などの意義」
- 対象：大阪府立三国丘高等学校 3 年生
政治・経済 選択者86名
- 時期：5月下旬から6月初旬にかけて実施
- 時間：4時間（1校時 50分）

学習指導要領解説 p.144

財政健全化については、**税収の不足など必要となる財源の確保ができない中での公債金への依存、・・・歳出における社会保障関係費や国債費の増加、・・・先進国の中で見た場合の社会保障支出と国民負担率の不均衡、債務残高の累増と将来の世代への負担の付け回し**など、様々な問題が見られる。

例えば、・・・**税制の見直しや必要となる財源の確保、予算制度の在り方や効率的かつ効果的な資源配分、基礎的財政収支の改善や債務残高の縮減、現在の世代と将来の世代との間の不公平の見直し**などに、どう関わるかを探究できるようにすることが考えられる。

諸外国における様々な状況や取組なども参考にして考察、構想し、自分の考えを説明、論述できるようにすることも考えられる。

目標 本単元での目標（資質・能力）

単元で構成する意図

- ・ 知識は与えられるものではなく学習者自身が構成（知識構成主義）
- ・ 知識同士の関連付け、葛藤、対話による多面的・多角的な視点の獲得

観点	目標
知識・技能	・ 財政の機能、財政民主主義等について構造的に理解する ・ 財政に関わる新聞等の資料を適切に読み取る
思考力・判断力・表現力	・ 財政に関して将来世代の視点などを取り入れた上で多面的・多角的に考察できる ・ 海外の将来を考慮した制度を参考した上で構想できる
主体的に学習に取り組む態度	・ 立場の違いを超えた、粘り強い対話と合意形成を行おうとする

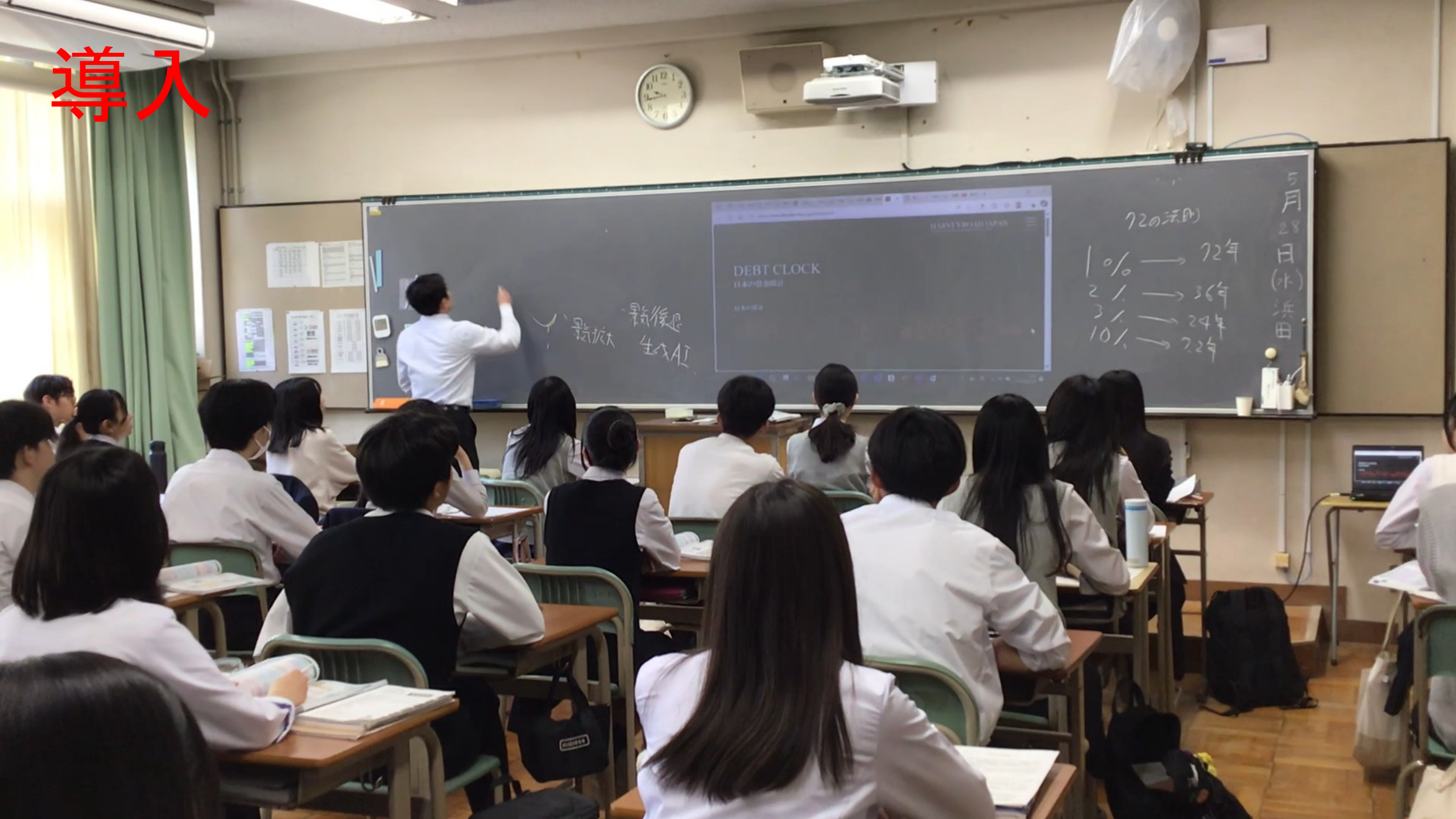
単元の流れ

時間	内容
第1時間目	累積債務問題に関する動画を視聴する。財政の現状、財政民主主義などを構造的に理解する。 （課題の把握）
第2時間目	税の公平性について理解する。社説を読み比べ、消費税がどうあるべきか多面的・多角的に考察する。 （考察1）
第3時間目	財政に関して様々な考え方（MMT理論など）があることを理解した上で、海外の制度も参考としながら、日本の財政の在り方を多面的・多角的に考察する。 （考察2）
第4時間目	将来世代役と現世代役に分かれて対話し葛藤を経験する。どの世代に生まれるか分からない「無知のヴェール」状況で、将来を考慮した制度の在り方を構想する。 （構想）

第1時間目の工夫 導入での発問

- 消費税 1 %ってどれくらいの税収？ 2.4兆円
- 1兆円 = 1,000,000,000,000円 板書
- 1兆円を100年間毎日使うなら1日いくら使う必要がある？
- 消防車1台、学校の建て替え、イージス艦1つは、いくら？
- 大谷翔平にとっての1万円と君たちの1万円の価値は同じ？
- なぜ財政赤字になるの？
- 予算を議決するのはどこか？

導入



第2時間目の工夫 情報活用場面での発問

- 資料を比較させる。その変化が起こっている意味を考察、さらに必要な情報は何かを考えられるように発問
- 「AとBはどちらが大きい？」
- 「AからBはどのように変化した？」
- 「そのような違いを起こる理由は？」

本実践の場合には、消費税、プライマリーバランスについての論調の異なる新聞をペアで読ませて、以下のようにスライドに提示。

- 「A社とB社の社説での主張の違いとは？」
- 「A社の主張の根拠はB社とどのように違うのか？」

資料読み取り



第3時間目の工夫

多面的・多角的な視点の確保

- 日本の累積債務についての考え方の違いを紹介
- ギリシャの財政との違いを比較
- 財源不足により、行政サービスが低下した日本の自治体を紹介
- MMT理論の紹介
- OECD諸国の「独立財政機関」、フィンランド国会の「将来委員会」などの事例紹介
- 現在を優先する自分を知る。
- 「今1万円もらうのを我慢するなら、1年後には最低でもいくら欲しいですか？」
- →中央値15,000円（割引率50%）

4 時間目の工夫 葛藤体験の導入

- 4 ～ 5 人の班で対話を行わせる。
- 半分は仮想将来世代、半分は現在世代。

50年後の仮想シナリオ

- 付加価値税（消費税） 25%
- 所得税 30%
- 保険料 6万円（月額）
- 医療費 3.5割負担
- 年金給付額 5万円（月額）

「もしも自分がどの世代か分からないなら？」

対話の内容

- 将来世代 A「しんどいねん、少子化やし負担しんどいねん。」
- 現在世代 K「いやいや、俺らも苦しい。ドイツにも負けるし、自動車もいかれたし。トランプ関税やし。」
- 将来世代 U「せめて減税だけは（やめて）、お願い」
- 現在世代 M「減税してもそんな変わらんやん。物価も高いし大変やで。未来のための減税やねん。」
- 現在世代 K「そう将来をよくするための減税。」
- 将来世代 A「国債返されへんやん」
- 現在世代 M「国債はもう無理、あきらめて。返されへんよ。MMTでいく。」
- 将来世代 U「でも他の国は消費税高いけど、やっていけてるやん。やれるんじゃないの」
- （沈黙）
- 現在世代 K「もう国債（返済）はあきらめてよ」

活動への感想（X組38名）

- ①自分と異なる視点の意見を聞いて、理解を深められた。
- ②将来世代や周りの意見に寄り添うことも必要だと思った。
- ③この活動を通して、短期的ではなく長期的な視点で政策を考える必要があると感じるようになった。
- ④班での活動中に、政策について判断に迷い葛藤することがあった。

	4そう思う	3まあそう思う	2あまりそう思わない	1そう思わない
①多面的理解	35	3	0	0
②共感的理解	34	4	0	0
③長期的視点	36	2	0	0
④葛藤経験	29	8	1	0

葛藤経験（複数回答可 X組38名）

- どのような葛藤を感じたか
- ①将来世代と現世代の利益
- ②自分の利益と社会全体の利益
- ③感情的判断と理性的判断のどちらを優先するか
- ④葛藤を感じなかった

①将来世代の利益と現世代の利益	3	5
②自分の利益と社会全体の利益	1	1
③感情的判断と理性的判断のどちらを優先するか	1	1
④葛藤を感じなかった	0	

現世代と将来世代の利益のバランスを取る仕組みとしてどのようなものが必要だと思いますか。提案してください。もしくは「必要ない」と記入してください。（X組38名）

分類	4月当初	事前	事後
財政再建	6	13	12
投資アプローチ	2	1	5
選挙制度の変更	0	9	7
枠組み変更	0	9	14
必要ない	—	4	0
無回答	30	2	0

具体的記述

- ・ある政策を決める時、その政策が施行されたら将来どうなるのかという結果を必ず提示する
- ・過去のデータから将来を予測して、自分が1番貧しい人になったつもりで利益代表をする組織を取り入れるべき。

参考文献等

- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編（2018）、文部科学省、p.114.
- ・斎藤誠（2021）「教養としてのグローバル経済」有斐閣、p.78.
- ・橋本康弘・藤井剛（監修）、大塚雅之、その他（2017）「授業LIVE 18歳からの政治参加 アクティブ・ラーニングで学ぶ主権者教育[授業事例集]」p.100-113.
- ・大塚雅之（2023）「行動経済学を取り入れ、公共的・社会的課題解決力を育成する高等学校公民科「金融」の単元開発と実践」、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,17(1)p.43-52、神戸大学
- ・大塚雅之（2025）「高等学校公民科における人間の非合理性を踏まえた社会参加学習—金融行動に対するナッジを用いた課題解決力の向上を目指して—」、公民教育研究32,p.53-67、日本公民教育学会
- ・西條辰義（2018）「フューチャー・デザイン」、環境経済・政策研究11(2)、p.29-42.
- ・小林慶一郎(2019)「時間の経済学」ミネルヴァ書房
- ・尾上成一・田崎智宏（2023）「将来世代考慮の制度の類型」環境経済・政策研究16、p.1-10.
- ・スティーブン・J・ソントン（著）、渡部竜也・山田秀和・田中伸・堀田諭（訳）、「教師のゲートキーピング」、春風社、p.141,
- ・本研究は、科学研究費助成事業（奨励研究 25H00115 研究課題：「持続可能な社会づくりをめざした金融ゲーム教材開発」）の研究成果の一部である。